

船舶事故調査報告書

令和5年9月1日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（標識灯）
発生日時	令和4年12月28日 09時30分ごろ
発生場所	<sup>みいけ</sup> 三池港 三池港北防砂堤灯台から真方位072° 250m付近 （概位 北緯33° 00.3′ 東経130° 23.7′）
事故の概要	油送船さち丸は、東北東進中、標識灯に衝突した。
事故調査の経過	令和5年1月6日、主管調査官（長崎事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	油送船 さち丸、749トン
船舶番号、船舶所有者等	142086、祝林タンカー株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級（航海） 水先人、島原海湾水先区一級水先人水先免状
負傷者	なし
損傷	本船 左舷船首ブルワークに擦過傷 標識灯 支柱に擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 ほとんどなし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期
事故の経過	<p>本船は、船長ほか5人が乗り組み、ガソリンを積載し、荷揚げ港である三池港の錨地で水先人が乗船して抜錨した後、水先人が水先業務に、船長が操舵に、機関長が主機の操作にそれぞれ当たり、航海士が船首配置につき、北防砂堤西端付近の航路を東北東進していた。</p> <p>本船は、右舷船尾方からの上げ潮の影響を受け、船首が右回頭していたので、水先人が、右方にある南防砂堤付近の浅瀬への接近を避ける目的で船長に左舵を取るよう指示したが、更に本船の船首が右回頭していることに気付いた。</p> <p>船長は、左舵と復唱して右舵を取っており、水先人は、船長が操舵を間違っ右舵を取っていることを指摘し、本船が浅瀬に乗り揚げることを防ごうとし、船長に左舵及び機関長に全速力後進並びに船首部配置の乗組員に右舷錨の緊急投錨をそれぞれ指示し、南防砂堤に接近した状態で停止した。</p> <p>水先人は、元の針路に戻ることとし、前進投錨状態であったので後進しながら錨鎖の巻き上げを航海士に指示して巻き上げていたところ、本船の船首が左回頭して北防砂堤に接近していたので、主機関を中立としてバウスラストを右に作動させるよう船長に指示し、船長が操作したものの、本船の左舷船首ブルワークが標識灯の支柱に衝突した。</p>

	<p>船長は、操舵スタンドの前に立って手動操舵に当たっており、北防砂堤西端付近の航路を東北東進中、船首配置で見張り中の航海士が船首方から漁船が接近していると水先人に報告したことを聞いた後、接近する同漁船を視認し、同漁船と左舷対左舷で行き会うことになるだろうと考えていた。</p> <p>船長は、水先人から左舵の指示を受けた際、水先人の指摘により、意図せず右舵を取ったことに気付いた。</p> <p>水先人は、本船の船首が左回頭して北防砂堤に接近した後、推進器が回転している状態で水没杭に接触すると推進器の損傷が大きくなると考えたので、推進器を使用しなかった。</p> <p>水没杭は、北防砂堤及び南防砂堤の航路側に航路に沿って連続して設置されており、標識灯は、支柱の下部が同水没杭に取り付けられていた。</p>
<p><b>分析</b></p>	<p>本船は、航路を東北東進中、船長が水先人の指示と反対の右舵を取ったことから、右回頭して防砂堤付近の浅瀬に接近し、乗揚を避ける目的で後進して緊急投錨した後、水先人が、錨鎖を巻き上げて北防砂堤に接近した際、推進器を使用しておらず、本船の方位制御ができずに船首が左回頭して、船首ブルワークが標識灯支柱に衝突したものと考えられる。</p> <p>水先人は、錨鎖を巻き上げた後、水没杭に接触した場合に備えて、推進器の損傷を軽くしようと考えていたことから推進器を使用しなかったものと考えられる。</p> <p>船長は、船首方から接近中の漁船と左舷対左舷で行き会うことになるだろうと考えていたことから、意図せずに右舵を取ったものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、航路を東北東進中、船長が水先人の指示と反対の右舵を取ったため、右回頭して南防砂堤付近の浅瀬に接近し、緊急投錨した後、水先人が、錨鎖を巻き上げて北防砂堤に接近した際、推進器を使用しておらず、本船の方位制御ができずに船首が左回頭して、船首ブルワークが標識灯支柱に衝突したものと考えられる。</p>
<p><b>再発防止策</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水先人が水先業務中の船舶において、操舵を行う者は、水先人の指示どおりの操舵を行うこと。</li> <li>・ 水先人は、船舶の方位制御を容易にする目的で推進器を使用し、前進推力を得て操船することが望ましい</li> </ul>